

## 2 共用部

### 2-1 アプローチ

- 配置は敷地条件、周辺環境、アクセス方法を考慮して決定します。
- エントランスに至るアプローチ部のデザインは、建物の顔としてのグレード感や期待感を与えるよう、植栽・照明計画と合わせた演出を心がけます。又、館銘板やサイン計画のデザインもその大きな要素として重要になります。
- 人、車、自転車等の導線交差が起こらないように計画します。  
(歩車分離)
- 水溜り、内部への雨水浸入等への対策をとります。(庇、水勾配、排水側溝、雨水樹、他) 大きな庇を設ける事は、上階からの落下物対策にも効果的です。
- 視界に入る雨樋、設備機器等(通気管、空調室外機、盤類、他)の見えがかりや目隠しに配慮します。

### 2-2 風除室

- 床材は滑りにくく、汚れにくい物を選びます。(参考資料:00)
- 奥行きは、歩行速度、扉開閉速度、オートロック操作台位置、非接触キー採用の有無等によって決定します。(4m前後)
- オートドアの故障時に備えて、補助導線を確保しておきます。
- 所轄消防署の指導によるオートドア非常開錠ボタン、誘導灯等の必要の有無を確認します。
- オートドアの引き込まれ、指詰めに注意したデザインとし、且つ不正に開く事の出来ない構造とします。(00ページ参照)
- オートロックのかかったオートドアは、エントランスホール側を引き込み側にします。
- 開戸の場合、外開きとし、開閉が容易にできる把手形状、扉重量等に配慮した大きさ・デザインとします。
- 受付カウンター、オートロック操作台、案内板等は、影にならないように専用照明等を考慮します。

### 2-3 エントランスホール

- 空間構成、照明計画、導線(エレベーターホール、メールコーナー、管理事務室、他)計画による効果的な演出を心がけます。
- 隣接住戸への開閉部や設備機械の振動、騒音、歩行音等の伝播に配慮します。(躯体との絶縁、防振・防音仕様、吸音材、浮き床工法等)(参考資料:00)
- 空調・換気設備を設け空気の滞留、結露に配慮します。
- 天井内の設備スペースと天井形状、照明位置等が干渉しないように調整します。
- 天井高に応じた維持管理方法の検討を行ないます。  
(キャットウォーク、オートリフター、点検口、他)



■上階からの落下物、雨風の吹き込み防止の為に庇やピロティを設けます。(00ページ参照)

■車両乗入れ部分の床仕上げは、特に割れ、沈下に注意します。

■床材は滑りにくく、汚れにくい物を選びます。(参考資料:00)

■出入口の幅は有効1200以上とします。

■受付カウンター(00ページ参照)

■出入口の幅は有効1200以上とします。  
■開戸の場合、外開きとし、開閉が容易にできる把手形状、扉重量等に配慮した大きさ・デザインとします。

■グレーチング等は滑り難く、ベビーカーのタイヤやヒール等がはまり難い物とし、ガタツキがない物を選定します。

■やむをえず段差を設ける場合、つまづかないよう段部分を識別しやすくし、スロープ(1/12勾配以上)を併設します。(福祉のまちづくり条例、バリアフリー法、東京都建築物バリアフリー条例、他)

■引き込みはエントランスホール側にします。

■オートロック操作台(00ページ参照)

■床材は滑りにくく、汚れにくい物を選びます。(参考資料:00)

■ガラス部分は安全に配慮し、強化ガラス又は、飛散防止フィルム貼りとし、加えて衝突防止の為に措置を施します。

■オートドアが不要な開閉をしないよう、センサー位置(感知範囲)に配慮して導線計画を立てます。(参考資料:00)

